

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

2023年8月30日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会長 藤 洋作 様

所属部局・研究科 人間・環境学研究所

職名・学年 博士後期課程・3年

氏名 竹田 響

助成の種類	令和5年度・国際研究集会発表助成			
研究集会名	XXII IOHA International Conference			
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 口頭 ・ <input type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他()			
発表題目	Connections and conflicts of kinship between Japan and Korean peninsula :issues on the “grave” and worship for the ancestor			
開催場所	ブラジル・リオデジャネイロ			
渡航期間	2023年7月22日～2023年7月31日			
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(参加証明書)			
会計報告	交付を受けた助成金額	350,000 円		
	使用した助成金額	350,000 円		
	返納すべき助成金額	0 円		
	助成金の使途内訳 (差し支えなければ要した 経費総額をご記入ください)	費目	金額(円)	
		航空運賃	335,450	
		宿泊費	48,550	
		滞在費	30,000	
学会参加費		8,000		
その他				
以上に助成金を充当				
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) この度は助成を賜りまして誠にありがとうございました。コロナ禍の影響などにより航空券の価格が大変高騰しており、この助成をなくして渡航は叶いませんでした。今後も、学生のために助成を継続して下さりますと大変嬉しく存じます。			

成果の概要 / 竹田響

1. 参加した学会

2023年7月25日～28日にかけて、ブラジル・リオデジャネイロにて行われたXXII IOHA (International Oral History Association) International Conferenceに参加した。報告者は文化人類学を専攻しており、フィールドワークに基づいた質的調査を行っている。今回参加したIOHAは、口承のデータをどのように活用することができるのかを議論する場にもなっており、かねてから一度参加してみたい学会の一つであった。

4年ぶりの対面開催となった今回の学会は、南米アメリカ各国からはもちろん、北アメリカ、ヨーロッパの他、インドや中国からも研究者が参加しており、正に国際学会としての色が強い大会であった。

2. 学会における口頭発表について

報告者の発表は学会初日にあり、発表会場には20名の学会参加者が聴衆としていらして下さった。本学会は公用語が英語とスペイン語の二ヶ国語になっており、基調講演では同時通訳がなされる。一方で、個別の口頭発表では同時通訳が配置されないこととなっており、スペイン語話者の方とどのようにコミュニケーションを図ることができるのか、不安であった。しかし結果としては杞憂に終わった。会場にいらした英語、スペイン語を共に解せる方がその場で通訳を行って下さり、スペイン語話者からも有意義なコメントをいただくことができた。また、発表を通して、中南米に渡った日系、韓国系の移民についてブラジルで研究を行っている研究者と繋がりが生まれ、日本の天皇制や植民地性について意見を交わした他、これがきっかけとなって、将来的に共同研究を行う話へと発展した。

今回の発表の際に聴衆からいただいたコメントを基に、論文の執筆を行いたいと考えている。資料として、学会事務局から発行された参加証明書を、本報告書に合わせて添付する。

3. 謝辞

今回賜った京都大学教育研究振興財団の助成なくして、本学会への参加は叶いませんでした。この場をお借りして、関係者の皆様に深く御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。今後も研究を更に発展させるために邁進して参ります。